

日本民間放送連盟賞 中国四国地区審査会で KSB 制作『検証 ゲーム条例』が 報道部門で1位選出

令和3年日本民間放送連盟賞 中国四国地区審査会「報道部門」におきまして、KSB 瀬戸内海放送が制作した『検証 ゲーム条例』が1位（最優秀賞）に選ばれました。審査員の講評では、「情報公開請求や関係者に丁寧に声を聞いて条例制定過程の不透明さを暴いた」「ジャーナリズムの本領を發揮した」など高い評価をいただきました。この作品は今年8月に行われる連盟賞の中央審査会に出品されます。



【番組】

報・動・力『検証 ゲーム条例』

放送：2020年6月27日（土）午前10時30分～11時25分

ナレーション：白戸ゆめの 山下洋平

撮影：廣瀬祐季 池田冬樹 加賀田将史 澤井敦彦

編集：川口明 EED、CG：吉永順平 MA：木村信博

企画・取材・構成：山下洋平

制作統括：本山秀樹

【番組内容】

2020年4月、香川県で全国初めて施行された「ネット・ゲーム依存症対策条例」。罰則はないが、18歳未満のゲームの利用時間を「1日60分（休日90分）まで」とする目安が盛り込まれ、全国的な注目を集めた。

県議会は、県民や事業者から意見を求めるパブリックコメントで「賛成意見」が8割以上という数値を示して採決に踏み切ったが、KSB が情報公開請求した「原本」を見ると、賛成意見には似たような文言が多く使われ、同一のパソコンから連続して投稿された痕跡も見つかった。

県内在住の高校生が「憲法違反」だとして訴訟の準備を進め、県弁護士会も「廃止」を求める会長声明を発表するなど、施行後もその是非が問われる異例の条例。導入を目指した背景や狙い、条例の中身と、制定過程の問題点について改めて検証した。



【審査員の講評】

「民主主義のプロセスの透明性は非常に重要で、情報公開請求や関係者に丁寧に声を聞いて条例制定過程の不透明さを暴いた。まさに報道の役割を果たした番組。全国の人に見てもらいたい」

「本来、民意を集約する場が議会であるはずなのに、中身を十分に説明しないままに決めている様子を丹念な取材で追い詰めていた優れた作品」

「自分たちの力でパブリックコメントの“インチキ性”を暴き出した執念に拍手を送りたい。番組のラストで前議長を追い詰める迫力もすぐく、ジャーナリズムの本領を發揮した」

【問い合わせ先】 KSB 瀬戸内海放送 コンテンツ事業ユニット

(広報) 引田章徳 087-864-5561

KSB瀬戸内海放送